

平成16年10月28日

JH日本道路公団

横浜工事事務所

横浜環状南線 横浜市南部地域猛禽類調査検討会の中間とりまとめ(その5)

横浜環状南線(以下、「横環南」)は、「首都圏中央連絡自動車道」の一部をなすとともに、神奈川県や横浜市の総合計画などにおいても重要な道路として位置づけられています。また、横環南は横浜の都心部から半径約10~15kmに位置し、横浜郊外の各区の相互連絡を容易にし、市の一体化を図るとともに、横浜中心市街地の交通混雑の緩和を図ること等を目的に計画された「横浜環状道路」の一部をなす重要な自動車専用道路です。

横環南は平成12年3月に工事に着手し、これまでに釜利谷JCT内において工用道路工事を実施してまいりました。また、今後の横環南の本格的な工事に向け事業者としてより慎重を期すため、平成12年8月に「横浜市南部地域猛禽類調査検討会(委員長:柴田敏隆 現:神奈川自然保護協会副理事)」を設置しオオタカの生息に関する調査・検討を行なってまいりました。

平成12年11月、平成14年1月、10月及び平成15年10月に調査結果をとりまとめ、中間報告したところですが、今般、平成16年の調査結果を含めてとりまとめましたのでお知らせします。

お問い合わせ先
日本道路公団 横浜工事事務所 工務課長 村田 啓 電話 045-352-3771(代表)

横浜市南部地域猛禽類調査中間とりまとめ（その5）の概要

平成16年10月

横浜市南部地域猛禽類調査検討会

1. 事業概要

横浜環状南線（以下「横環南」）は「首都圏中央連絡自動車道」の一部をなすとともに、神奈川県や横浜市の総合計画などにおいても重要な道路として位置づけられています。

また、横環南は横浜の都心部から半径約10～15kmに位置し、横浜市郊外の各区の相互連絡を容易にし、市の一体化を図るとともに、横浜中心市街地の交通混雑の緩和を図ること等を目的に計画された「横浜環状道路」の一部をなす重要な自動車専用道路です。



2. 検討会の概要

(1) 概要

神奈川県より横浜市南部地域におけるオオタカの生息に関する情報提供があり、事業者として、今後の横環南の本格的な工事に向けより慎重を期すために、平成12年2月から調査を開始しました。

また、平成12年8月に「横浜市南部地域猛禽類調査検討会(委員長:柴田敏隆 現:神奈川自然保護協会副理事)」を設置して生息・繁殖状況調査等の調査の結果を踏まえ、保全対策について検討を行いました。今回、保全対策の効果の検証について検討を行っています。

表2-1 検討会名簿(平成16年10月現在)

	氏名	所属
委員長	柴田敏隆	(特非)神奈川自然保護協会副理事
委員	柳澤紀夫	(財)日本鳥類保護連盟理事
	川手隆生	神奈川野生生物研究会事務局長
	石田 稔	国土交通省横浜国道事務所所長
	松崎 薫	日本道路公団横浜工事事務所所長

(2) 検討内容

第9回検討会を平成16年10月7日に開催し、以下の検討を行いました。

- ・平成16年の生息・繁殖状況調査等の結果について
 - ・保全対策の効果を検証するためのモニタリング(監視)手法についての検討
- また、これまでの検討内容について、4回中間とりまとめとして公表を行っています。

表2-2 検討会及び中間とりまとめ一覧表

検討会(開催日)	中間とりまとめ(公表日)	備考
第1回検討会(平成12年 8月 7日)	中間とりまとめ(その1) (平成12年11月16日)	
第2回検討会(平成12年10月13日)		
第3回検討会(平成13年 3月23日)	中間とりまとめ(その2) (平成14年 1月17日)	
第4回検討会(平成13年 7月 8日)		
第5回検討会(平成13年12月10日)		
第6回検討会(平成14年10月10日)	中間とりまとめ(その3) (平成14年12月19日)	
第7回検討会(平成15年 3月28日)	中間とりまとめ(その4) (平成15年10月23日)	
第8回検討会(平成15年 9月 2日)		

これまでの中間とりまとめは、JH横浜工事事務所ホームページ <http://www.jhnet.go.jp/tokyo/yokohama/> にて、ご覧になることができます。

3. 平成16年の生息・繁殖状況調査結果

(1) 現地調査の期間

表 3-1 調査の項目と期間

調査項目	調査期間	備考
生息状況調査	2～7月	2日間/月
繁殖状況調査	4～7月	
食痕調査	2～7月	1日/月

(2) 生息状況調査

横浜市南部地域の現地調査で毎月ともオオタカの飛翔を確認しました。

(3) 繁殖状況調査

平成8年から平成16年まで毎年繁殖が行われ、昨年と同じ営巣地において平成16年は3羽の巣立ちを確認しました。

(4) 食痕調査

食痕は調査地全域で確認されました。これまでの調査結果から、食痕として確認された種は、大半が横浜市南部地域には一年中みられる留鳥であること、確認された場所も特に偏りは見受けられないことを確認しました。

4. 保全対策効果検証のためのモニタリング（監視）手法

(1) 保全対策

これまでの調査結果を踏まえ、検討会で提案された保全対策の概要を以下にまとめました。

表 4-1 保全対策

工事位置	保全対策の概要
供用中の釜利谷ジャンクション内	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音・低振動型建設機械の使用 ・建設騒音の低減化（トンネル掘削工法） ・施工段階での土地の改変面積の縮小 ・工事途中段階での早期自然復元 ・既存樹林の保全 ・工事従事者の服装、行動の指導・徹底
釜利谷ジャンクションに隣接する緑地部	<ul style="list-style-type: none"> ・供用中の釜利谷ジャンクション内における保全対策に加え下記の対策を実施する。 ・営巣期間中の重機を使用した作業、音の出る機械を使用した作業について、必要に応じて工程に配慮する。 ・営巣期間中において、飛翔の妨げとなる高さのクレーン作業を制限する。 ・工事用道路をパネル等により遮蔽する。 ・営巣期間中の作業内容により必要に応じて、繁殖状況のモニタリングを実施する。

(2) モニタリング（監視）手法の検討

検討会において提案された保全対策の効果を検証するため、営巣期に工事の状況に合わせて実施するオオタカの繁殖状況のモニタリング（監視）手法について検討しました。

5. まとめ

これまでの調査結果を踏まえ、道路と自然環境との調和に十分配慮した取り組みを進めることにより、オオタカの生息への影響は軽減できると考えられます。

なお、今後も継続してモニタリングにより繁殖状況等を確認し、これまで検討してきた保全対策の効果を検証することとしています。

オオタカの飛翔状況・営巣地等に関する情報の公表は、巣の位置が限定され、密猟のほか、カメラマン、観察者等多数の人々が営巣地の近辺に出入りを繰り返すことにより、オオタカの繁殖を阻害する恐れがあるため差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願いいたします

以 上

釜利谷ジャンクション内での工事用道路工事において、これまでに実施した保全対策の概要は下記のとおりです。

各工事において実施した保全対策の概要

工 事 名	期 間 (工期)	工事位置	実施した保全対策	繁殖状況
釜利谷工事	H12.2.2 ～ H13.1.26	釜利谷ジャンクション内	・低騒音・低振動型機械を採用 ・改変部分に郷土種を主体とした植栽	平成 12 年 ： 3 羽巣立ち
釜利谷整備工事	H13.3.24 ～ H14.10.14	釜利谷ジャンクション内	・低騒音・低振動型機械を採用 ・改変部分に郷土種を主体とした植栽	平成 13 年 ： 3 羽巣立ち 平成 14 年 ： 4 羽巣立ち
釜利谷北整備工事	H15.3.25 ～ H16.2.17	釜利谷ジャンクションに隣接する緑地部	・低騒音・低振動型機械を採用 ・営巣期間中については施工方法・工程に配慮	平成 15 年 ： 3 羽巣立ち 平成 16 年 ： 3 羽巣立ち